

## AI エージェントと連携した遠隔診療システムの開発

### —医療現場の不安を、臨床判断につなげる—

#### 1. 背景

医療の高度化と専門分化の進展により、複数疾患を有する患者に対する診療は複数の専門領域をまたぐ判断が求められるようになってきている。

一方で、専門医は地域的・時間的に偏在しており、必要な専門知識が適切なタイミングで現場へ届かないという課題が存在している。また、近年発展している医療 AI は個別タスクへの適用が中心であり、実際の臨床ワークフローに統合されていないため、現場での実利用に至らないケースが経験される。

#### 2. 目的

本プロジェクトでは、医師間遠隔コンサルテーションに AI エージェントを組み込み、情報整理、初期評価、議論支援を通じて専門医の判断プロセスを効率化し、限られた専門医リソースを最大限に活用できる医療支援基盤を構築することを目的とした。

#### 3. 製品・サービスの内容

本プロジェクトで開発した Doctors Summit は、医師間コミュニケーションを基盤とするチャット型医療支援システムであり、AI エージェントが相談内容の整理や情報構造化を担うことを特徴としている。

症例単位で議論を管理できるチャット基盤を構築し、AI が自由記載された医療情報を解析して診療判断に必要な形式へ整理する機能を実装した。また、専門医へ相談する前段階として、AI が不足情報の検出や初期的な情報整理を行うフロントエージェントを導入し、相談品質の向上を図っている。

実証実験では 20 施設・約 40 名の医師が参加し、1.5 か月間で 23 症例の遠隔診療支援を実施した。加えて、情報の即時低調、入力された情報の処理を実施するフロント AI の開発を推進した。

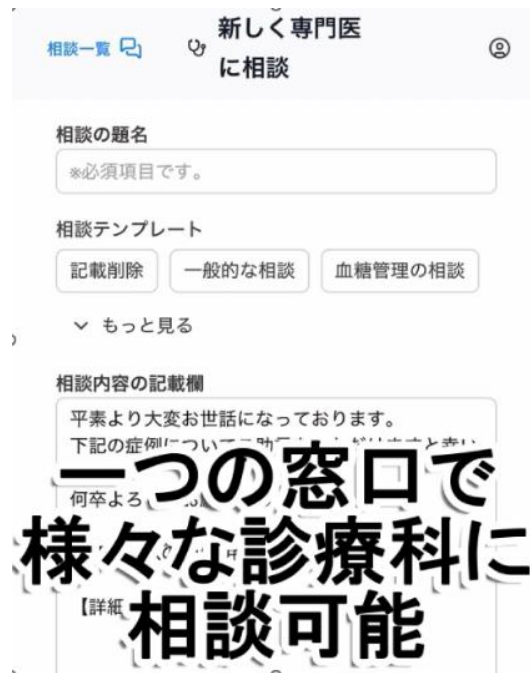


図 1 Doctors Summit の画面

## 20施設40名の医師を生成AI支援型の遠隔コンサルテーションで支援。論文執筆中

**65%削減**  
情報の構造化に要する時間

**93%完遂**  
テキストベースでの支援完遂率



※1.5か月、23症例

図 2 Doctors Summit の成果概要

#### 4. 新規性・優位性

本システムは、専門医の思考過程を有する生成 AI と、専門医のコミュニティの両輪を最大活用し、利便性と医療の診療の質を確保する点に新規性を有する。従来の医師間チャットが情報共有に留まっていたのに対し、AI エージェントが臨床判断に必要な情報整理を能動的に担う。

また、入力された情報に対し、医師の思考プロセスを反映した構造化を行うことで、単なる要約生成ではなく実務に直結する支援を可能とし、医師が臨床判断に集中できる環境を実現する点が優位性である。上記に際しては、医療の法規に最大限準拠している。

## 2025 年度未踏アドバンスト事業

### 5. 事業普及（または活用）の見通し

全国 20 の医療機関、約 40 名の医師に協力いただき、1.5 か月の実証実験を実施し、受容性とコンセプトの実行可能性を確認した。現在開発中の、フロント AI の実装後、各地域の大学や医療機関（病院、診療所）を介して、医療現場での実証を継続する。

### 6. 期待される波及効果

実証実験では遠隔助言のみで 93%の症例において診療支援が完結し、コンサルテーション記録の構造化作業においては生成 AI の活用により医師の作業時間を 65%削減できる可能性を確認した。

2025 年には株式会社ドクターズサミットを設立した。未踏アドバンスト事業期間中に東京大学医学部附属病院循環器内科との共同研究契約を締結し、あわせて大手企業と共同研究に向けて調整を進めている。アカデミア・企業との連携を通じて実運用環境での展開を開始する予定である。

今後は医師ユーザーの拡大と臨床研究を通じた社会実装を進める計画である。

### 7. イノベータ名（所属）

澤野 晋之介（株式会社ドクターズサミット代表取締役、朝日生命成人病研究所主任研究員、東京大学医学部附属病院循環器内科学術支援専門職員）

竹内 博俊（株式会社リクルート）

キャメロン トーマス研太

株式会社ドクターズサミット HP : <https://doctors-summit.click/>